

平成27年1月13日
JR北海道

A T S関連の締切コックが「閉」となっていた事象の調査結果について

平成26年12月29日付ニュースリリース「キハ183-4562号の電磁給排弁非常吐出締切コックが「閉」となっていた事象について」でお知らせしました件についての調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

1. 概況

平成26年12月28日(日)0時20分頃、札幌運転所において、検修社員が当日の特急北斗6号となる車両の出区前に「電磁給排弁非常吐出締切コック」が設置されている機器室のフタの封印状態の検査を行っていたところ、封印シールが一部剥がれているのを発見しました。機器室内部を確認したところ電磁給排弁非常吐出締切コックが通常、「開」となっているところ、「閉」の状態であり、コックを固縛するバインド線も無い状態でありました。

2. 原因

平成26年11月28日の函館運輸所における使用前整備時に、電磁給排弁非常吐出締切コックを「閉」から「開」とし固縛するところ、当該コックを「開」とせず、誤って別の圧力スイッチコックに固縛してしまったと推定します。

3. 対策

(1) 緊急対策（実施済み）

- ①当該コックが「閉」となっている可能性のある車両(35両)の一斉点検の実施
(平成26年12月30日終了、異常なし)
- ②183系特急気動車の封印状況の運転士による出区前点検を追加実施
(平成26年12月30日から実施)

(2) 恒久対策

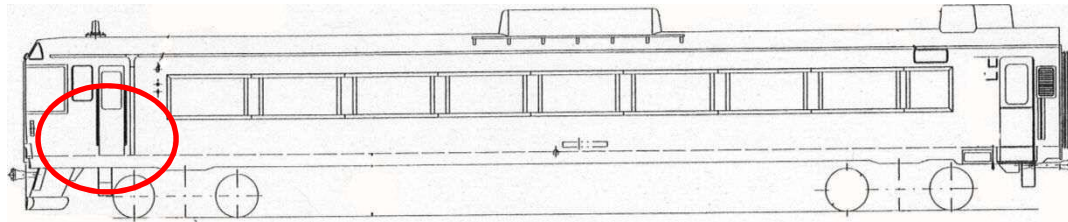
- ①当該コックについて
 - ・当該コックを扱った場合のA T Sによる非常ブレーキの動作確認と記録を実施
 - ・当該コックの銘板を取り扱う側（見え易い方向）に変更（実施時期検討中）
※暫定措置として、テプラ等による標記を実施（平成27年1月末までに実施予定）
- ②作業終了後のチェックを確実にを行うための見直し
 - ・確認しづらく、かつ安全に係わる項目を抽出し、チェック方法を「必ず対物チェックをしないと書き込めない方式」(※)とする
(平成27年1月末までに項目の抽出予定)
 - ・本社による作業終了後のチェック実施状況の定期的な確認の実施
(平成27年1月7日から実施)

※「必ず対物チェックをしないと書き込めない方式」とは。

現地現物を見ないとチェック表に記載できない仕組みのことです。例えば、1人目が数種類の中から1色のペンキで確認した印を付け、2人目がそのペンキの色を確認、記録するといった方式です。

キハ183-4562号 電磁給排弁非常吐出締切コックについて

別紙



発見時の封印状態（再現）



運転席の床面足下



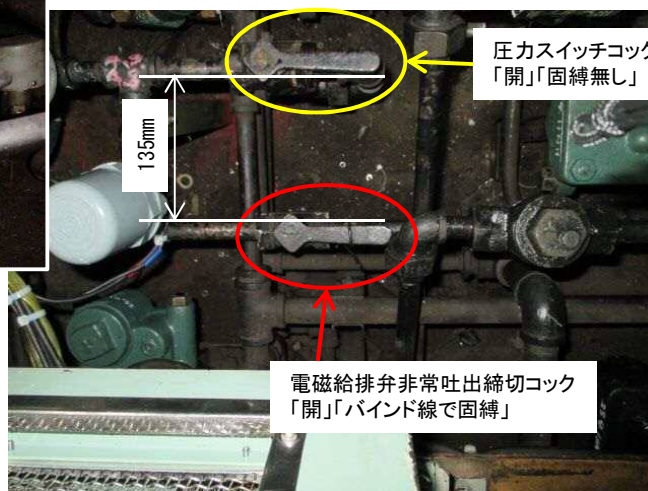
フタを開けた状態



封印シール「一部剥がれ」



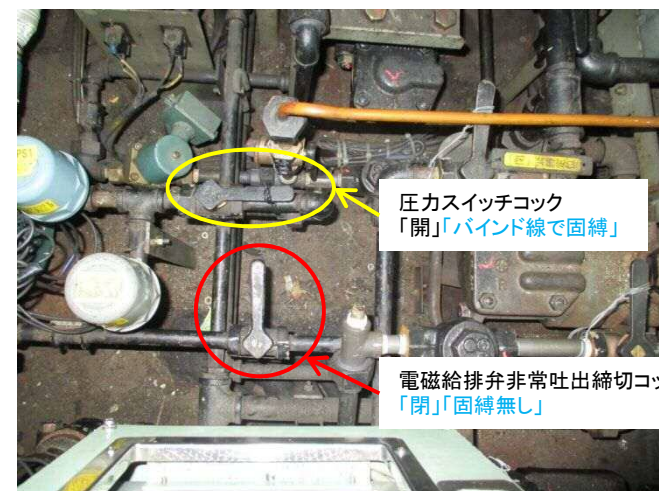
銘板の状態（横から見た図）



圧カスイッチコック
「開」「固縛無し」

電磁給排弁非常吐出締切コック
「開」「バインド線で固縛」

正常な状態（コック、固縛）



圧カスイッチコック
「開」「バインド線で固縛」

電磁給排弁非常吐出締切コック
「閉」「固縛無し」

当該車両の状態